

## (検討会議事概要公表様式)

## 中部森林管理局「令和3年度国有林の地域別の森林計画等検討会」概要

開催日時 及び場所	令和4年3月10日(木) 13:30~16:30 中部森林管理局ほか
委員	<p>赤堀 楠雄 (林材ライター) 大森 清孝 (飛騨生態調査研究室代表) 伊藤 光邦 (岐阜県素材生産流通協同組合理事長) 岡野 哲郎 (信州大学農学部教授) 加藤 正吾 (岐阜大学応用生物科学部准教授) 加藤 博和 (設楽測量設計株式会社代表取締役) 杉本 俊也 (岐阜県立森林文化アカデミー講師) 高田 幸生 (長野県森林組合連合会代表理事専務) 前田 徹 (愛知県森林組合連合会代表理事専務) 柳原 正紀 (富山県森林組合連合会代表理事副会長・専務) 山崎 真理子 (名古屋大学大学院生命農学研究科准教授) 【欠席】 山下 眞佐子 (富山県自然保護協会理事) 【欠席】</p> <p>検討委員 12名 (うち出席 10名)</p>
議事内容	<p>○ 令和3年度に策定する地域管理経営計画書(案)及び国有林野施業実施計画書(案)について(森林計画区:神通川、木曾谷、飛騨川)</p> <p>○ 令和元年度に変更する地域管理経営計画書(案)及び国有林野施業実施計画書(案)について(森林計画区:中部山岳、千曲川上流、伊那谷)</p> <p>○ 令和3年度に改正する地域管理経営計画書の別冊「管理経営の指針(案)」について</p> <p>○ 令和3年度の中部森林管理局の取組事例について</p> <p>○ その他</p>
委員からの 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木材の安定供給が掲げられているが、市場が求める小丸太や中目材などを安定供給するためには、これから新植を増やしていくことが大切である。</li> <li>・ 造林の低コスト化について、試験等も実施していると思うが、今後、重要な取組になってくる。</li> <li>・ 地域管理経営計画(案)等の概要の天然更新量の算定方法について、注釈等が必要と思う。</li> <li>・ 豪雨等の災害により実行不可となった間伐などの計画箇所は、復旧後に適切に対応することが必要である。</li> <li>・ 針広混交林化や広葉樹林化などの基準作りについては、次々に出てくる新しい知見も踏まえて、柔軟に対応していただきたい。</li> <li>・ 母樹の保存方法については、長野のみではなく、今後、愛知、岐阜、富山の森林の状態を十分に踏まえたものになるよう検討をお願いしたい。</li> <li>・ 愛知県北東部に現存するブナ林を20年にわたり観察・記録をしているので、必要であれば情報提供したい。</li> <li>・ 地域外の業者が国有林の仕事落落札するケースが増えているので、地元の事業者の育成につながるような配慮をしてほしい。</li> <li>・ 裸苗の方がコンテナ苗よりも低コストではないかという意見もあるので、裸苗とコンテナ苗については、それぞれのコストについて検証しながら、</li> </ul>

ケースバイケースで対応することも必要だと考える。

- ・ 公共工事で予定価格の公表が行われているように、国有林材の立木販売やシステム販売についても、予定価格を公表することを考えていただきたい。
- ・ 林業経営体、林業事業者の減少に歯止めをかけられるよう、地元で木材が活用され、事業者へ利益が還元される方策を一緒に考えていただくようお願いする。
- ・ 森林認証材の普及に向けては、国有林が森林認証を取得することで牽引できるのではないか。
- ・ 山地災害の兆候を情報提供するシステムを作ることができないか。

事務局：中部森林管理局 企画調整課